

の支持をもらえれば、写真家や広告主が無視できないメディアになるのだから。私は写真愛好家が集うイベントなどに通い、対話を重ねた。この時も本音を引き出すことを重視したが、「どんな記事が読みたいか」ではなく、写真撮影での「困りごと」にひたすら焦点を当てた。

こういうケースでは、問いの立て方が重要だ。例えば相手に「どんな記事が読みたいか」とたずねることにあまり意味はない。大量の無料情報が流通する時代の「読みたい」と「買いたい」は別の感情だ。必要不可欠な情報が提供され、「困りごと」が解決されると思えなければ、「買いたい」にはならないと考えた。

そして、ここでも前出の「汝、何のためにそこにありや」が生きてくる。朝日新聞の看板を背負う写真・カメラ誌の存在意義を自らに問い、「時事性を追う」という方針に行き着いた。スマートフォンが登場以来、カメラや写真の役割は大きく変わった。なのに、相も変わらず古めかしいカメラの話や写真談義をしたとて、アサヒカメラが存在する理由はないと考えたのだ。

結果、その考えはさまざまヒット企画となつて実を結んだ。個人情報保護意識の強まりから街角で写真が撮りにくくなったという声は「スナップと肖像権」の特集になり、インターネットでの写真の無断使用問題が契機と

なつて「著作権を学ぶ」シリーズ企画が生まれた。撮影マナー問題の記事もその流れをくんだものだった。いずれも掲載号は大ヒット。マスコミにも取り上げられ、連続で完売したこともあった。

ところで、ドラマや小説で描かれる編集者といえば、どこか自己中心的で発想豊かな人物になりがちだが、実は私は自分の感覚をあまり信用していない。他者の話や客観的なデータを集めない限り、自信を持って事を前に進められない性格なのだ。

もともと、こういう気質になつたのは、高校卒業後の「2浪生活」が影響しているかもしれない。高校卒業直前の定期テストはクラスで43人中39番目の成績。それでも私は「デキるヤツ」と根拠のない自信を持っていた。ところが3年間の大学受験で10連敗を喫したことで、自信を失い、夢や大志を抱かなくなつてしまった。

私が編集者になつたのも自分の希望ではなく、リクルート時代の編集長が起用してくれたからにすぎない。とはいえ、期待には応えたい。やるからには逃げ出したくない。今に至るまでの積み重ねでしかない。

「夢や志なんて、なぐりゃあぶさす」

最後に、ここにお集まりの皆さんに申し上げたい。もし若者たちが夢や大

志を抱かないからといっても、決して批判しないしてほしい。こんな時代に希望を持つこと自体が大変なことだ。タレントで元AKBの指原莉乃さんが10年前、朝日新聞のインタビューでこんな話をしていた。

「目標は持たない。目標を持つとそこまでしか行けないから。どっちに転んでも楽しめるような生き方をしたい」私も同感だ。夢や志なんて、なくてもいい。与えられた環境で常に自身に「汝、何のためにありや」と問い続けていけば、いずれ道は開ける。一歩一歩、前に進もうとする若者たちの背中をそっと押してあげてほしい。



佐々木さんを紹介した際に 同期の県議、武内伸文さんが話題にした佐々木さんのしっかりとしたふくらはぎは講義後、参加者の注目の的

Profile
ささきひろと／1971年、秋田市生まれ。一橋大学社会学部を卒業後、リクルートで海外旅行情報誌の編集者を務める。その後、朝日新聞社で「週刊朝日」の記者・編集者、副編集長に。2014年からは「アサヒカメラ」編集長、ニュースサイト「AERA dot.」編集長、朝日新聞出版雑誌本部長などを務めた。現在は株式会社キュービックで編集部門の統括責任者、関連会社の編集プロダクション「株式会社アーク・コミュニケーションズ」の取締役、専修大学文学部講師を務める。2023年からはデジタルアーカイブ学会に参加。個人の編集者としても講演や執筆を行っている。
X (旧Twitter) @Hiroto_Sasaki

税理士法人 三浦相原事務所

会長 相原定幸 (昭和41年卒)
所長 三浦秀明 (昭和56年卒)

〒015-0874 秋田県由利本荘市給人町20-1
TEL 0184-24-5255 FAX 0184-24-2894



こまち透析クリニック

院長 寺邑朋子 (昭和56年卒)

TEL 0187-73-7875
FAX 0187-73-7876
【日曜日以外 年中無休】

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
AM 8:30~13:30	●	●	●	●	●	●	—
PM 13:30~17:30	●	—	●	—	●	—	—

〒014-0055 大仙市大曲あけぼの町13-37